

加古川市まち・ひと・しごと創生戦略会議について（概要報告）

1 目的

本市におけるまち・ひと・しごと創生を効果的かつ効率的に推進するために、総合的かつ専門的な見地から意見を聴取する。

2 日時及び場所

日時：令和4年2月21日（月） 14時00分～15時30分

場所：加古川市役所 新館10階 大会議室

3 出席者

委員13名中、11名出席

4 議題及び内容

第2期加古川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について

令和3年度を初年度とする第2期加古川市まち・ひと・しごと創生総合戦略における各指標及び、地方創生に係る交付金等の活用状況について報告。

5 委員の意見等

(1) ひと

・ここ数年、多くの市町村が子育て世代に重点を置いた施策を実施してきているが、子どもの数は大きく減少している。本市においても、子育て施策を充実させ、環境の改善が見られるものの、出生数や婚姻率の好転には至っていない。これまでの施策に加え、婚姻率の向上に軸足を置いた施策も考える必要があるのではないか。

(2) しごと

・加古川市は、全国的に見ると自然災害に対する安全性が極めて高い地域であり、企業誘致における大きな強みである。また、近年、脱炭素に向けた取組が注目されている。重工業系の優良企業が多い本市だからこそ、新たなビジネスチャンスを求める魅力ある企業が誘致できるのではないか。地域にとってどのような企業を誘致すべきか明確にする必要がある。

・コロナ禍により在宅勤務が進むなど、働き方が多様化している中、労働者はその変化を柔軟に受け入れ、対応している。サテライトオフィスやコワーキングスペースなどに対するニーズも生まれている。

(3) まち

・加古川図書館の駅南への移転により、若い世代をはじめ、様々な世代が集まっている状況は、非常に良いことだと思う。令和4年度の貸館機能の移転においても、今までと異なる人が駅周辺に集まることを期待している。駅周辺にコワーキングスペースも立地していることから、何かにチャレンジしようとする人が集まる場所となり、人のつながりが新たな起業・創業のきっかけとなると考える。

・脱炭素に向けた取組に関しては、産業、商業、業務、家庭など、部門ごとにできることは異なるが、小さなことを積み上げていくことが大事である。まずは、家庭に対し行政単独で取り組めることを考えてはどうか。